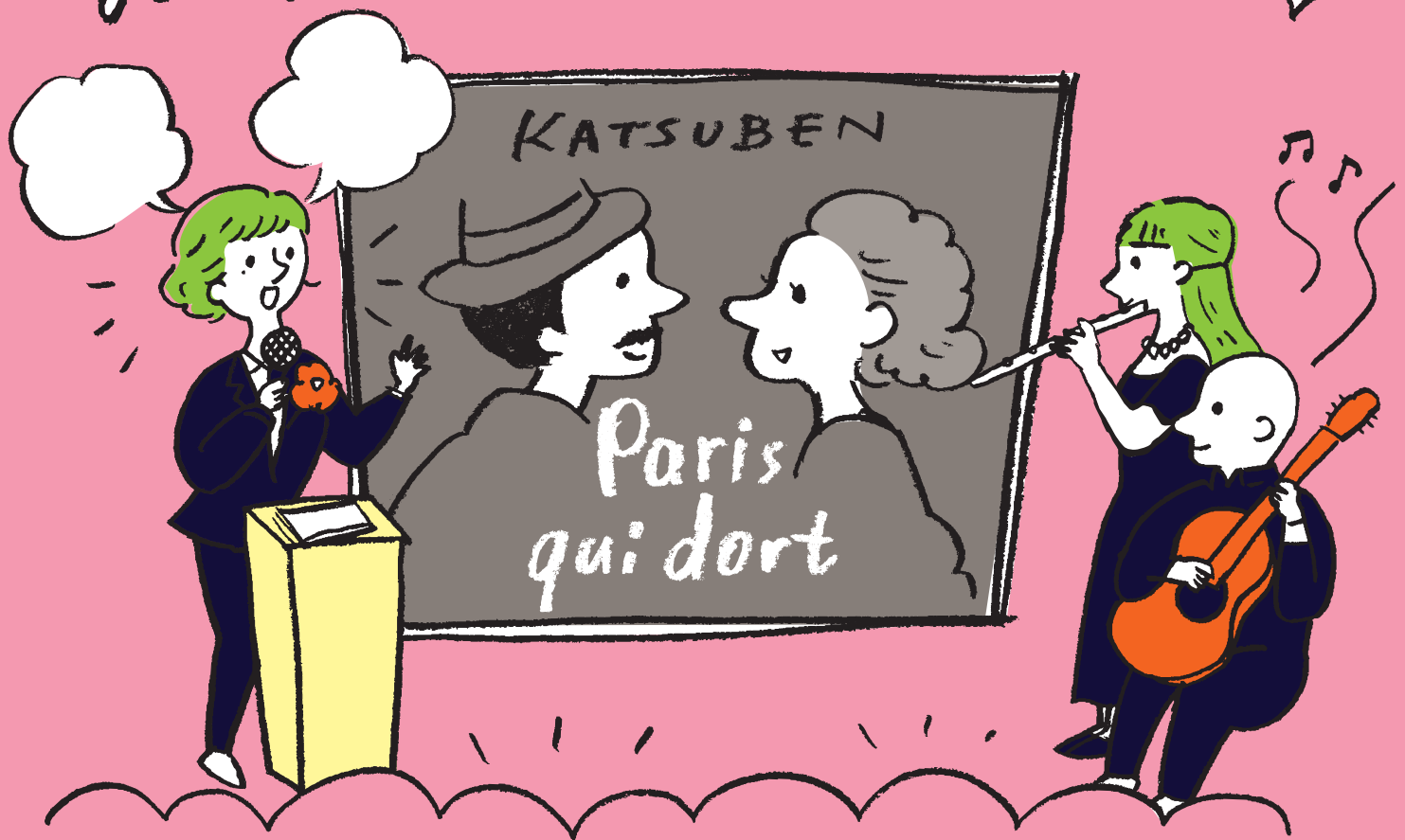


活動弁士 澤登翠の 無声映画の宝箱



1895年に完成した光の芸術、映画。当時、映画に音はついておらず、楽士がいて音楽がつけられるのが上映の形でした。日本では活動写真とよばれ、語りの文化を受け継ぐ弁士が活躍しました。トーキー映画発明後、無声(サイレント)映画の制作はしだいに減少しました。無声映画は音のない世界ですが、それゆえに映画を芸術たらしめるために洗練された映像の美が生みだされました。今回は、活動弁士澤登翠が、歴史をひもときながら、無声映画の宝箱にご案内いたします。カラード・モノトーン・デュオの生演奏つきです。

<上映作品>

『リュミエールの実写集』 1895年～1896年／
14作品／14分

『眠るパリ』 監督:ルネ・クレール
1923年／39分

『子宝騒動』 監督:斎藤寅次郎
1935年／34分

台本・語り:澤登翠(さわとみどり)
楽団:カラード・モノトーン・デュオ

2020年
2月15日(土)
14:00開映
(13:45開場)

【料金】2,700円(全席自由・税込)

小・中学生1,500円／25歳以下2,000円(要証明・窓口販売のみ)／
アルテリオ・シネマ会員2,500円(要会員証・ポイントなし・窓口販売のみ)

【会場】川崎市アートセンター アルテリオ小劇場

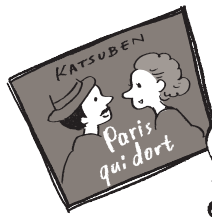
【発売日】2019年12月23日(月)

【取扱い】川崎市アートセンター

web <http://kawasaki-ac.jp/th/>

tel 044-959-2255(9:00-19:30、土日祝・原則第二月曜および12/29～1/3を除く)

窓口 9:00～19:30(原則毎月第二月曜および12/29～1/3を除く)



活動弁士澤登翠の 無声映画の宝箱

さわと みどり
台本・語り:澤登 翠 楽団:カラード・モノトーン・デュオ

2020年
2月15日(土)
14:00開映
(13:45開場)



『リュミエールの実写集』

1895年~1896年/14作品/14分/サイレント/白黒/16mm

いまから125年前に撮影された世界最初の映画
映画の誕生は、エジソンの覗き見式「キネトスコープ」とイーストマンのセルロイドフィルムの発明により発展したのち、米、英、仏、独の発明家が完成を競った。今日ではフランスのリュミエール兄弟の発明「シネマトグラフ」有料上映の1895年12月28日を映画の誕生としている。最初の上映の『工場の出口』『列車の到着』『赤ん坊の食事』ほか14作品を上映。リュミエールはフランス語で「光」、そしてシネマトグラフの呼び名はギリシャ語の「動き」を「えがく」からきている。



さわと みどり
澤登 翠 台本・語り

法政大学文学部哲学科卒業。故松田春翠門下。日本独特の活弁「活弁」の第一人者として、国内を始め、伊、米他海外にも招聘され好評を博している。洋画、現代劇、時代劇とレパートリーも豊富。活弁の継承者としての活動が評価され、これまでに文化庁芸術祭優秀賞、文化庁映画賞他を受賞。無声映画鑑賞会での公演を基盤にフィルムセンターや各地の映画祭での公演、大学他での講座、TV番組のナレーション、朗読とその活動は多岐に亘る。2015年、『文藝春秋』に掲載の「日本を代表する女性120人」に選出、2017年3月には松尾芸能賞特別賞を受賞。周防正行監督最新作映画『カツベン!』では、活動弁士監修を担当した。



カラード・モノトーン・デュオ
音楽

湯浅ジョウイチ/作曲・編曲、ギター
1987年、東京国際映画祭にてD.W.グリフィスの『国民の創生』の楽士を機に、サイレント映画の伴奏用音楽の復元や作曲・制作なども行う。また上映時に生演奏するための和洋楽団カラード・モノトーンを結成。無声映画で使用された古典的な音楽の復元から現代的なアプローチまで対応範囲は広い。

鈴木真紀子/フルート
桐朋学園大学音楽学部卒。フルートを峰岸壮一氏に師事。1994年オーストリアとスイスで国際フルートセミナーに参加、ファイナルコンサートに出演。現在、楽団「カラード・モノトーン」主要メンバー、また、芹洋子のアコースティックバンドメンバーとしても活動。順天堂大学交響楽団のフルートトレーナー、東洋英和女学院フルート講師。



『子宝騒動』

1935年/34分/サイレント/白黒/16mm/日本
監督:斎藤寅次郎
出演:小倉繁、出雲八重子、横山準(爆弾小僧)

走って走りまくるとばた
喜劇、無声映画末期の傑作

7人目の子どもの出産を目にして失業中の福田さんは電気もガスも切られてしまった。出産に慣れた子どもたちはせっせと準備を始める。産婆を探して疾走する父は、金策も兼ねて懸賞レースに参加し脱線に脱線を重ねる。時代風刺のきいた喜劇が画面に弾ける。斎藤寅次郎は松竹蒲田時代には60本以上のナンセンス喜劇を作り人気を博した。そのほとんどが失われているなか現存する貴重な作品。



『眠るパリ』

1923年/39分/サイレント/白黒/16mm/フランス
監督・脚本:ルネ・クレール/助監督:クロード・オータン・ララ
出演:アンリ・ロラン、シャルル・マルティネリ

芸術盛んな狂騒のパリ20年代の実景のSF映画

エッフェル塔の管理人アルベールが目覚めるとパリのすべてが静止していた。さきよう彼が会ったのは飛行機から降りた5人の男女。大宴会もつかの間、時間を奪われた世界は一変にして退屈になる。そこへラジオからSOSが流れてきて、花の都の眠りの正体が暴かれる。『巴里の屋根の下』『巴里祭』でパリのイメージを不動のものにしたルネ・クレールの映画デビュー作。

【料 金】2,700円(全席自由・税込)

小・中学生1,500円/25歳以下2,000円(要証明・窓口販売のみ) /
アルテリオ・シネマ会員2,500円(要会員証・ポイントなし・窓口販売のみ)

<会場・お問い合わせ>

川崎市アートセンター アルテリオ小劇場 (小田急線「新百合ヶ丘駅」北口徒歩3分)

〒215-0004 神奈川県川崎市麻生区万福寺6-7-1 tel 044-955-0107 <http://kawasaki-ac.jp/>

<駐車場サービスのご案内> 本公演をご鑑賞されるお客様に、Odakyu OX万福寺店駐車場のサービス券(90分)を200円にて発行しております。

access map

